

山形文化遺産防災ネットワーク

2012 年度報告会・研修会

～ 次の 1000 年のために、次の 1 年のために ～

日 時 : 2013 年 3 月 16 日 (土) 13:00 開会 16:15 閉会

場 所 : 山形県立博物館講堂

日 程 :

12:00～ 集合・会場準備

13:00～13:15 開会・設立宣言

13:15～13:30 山形ネット活動／会計報告 (15 分) : 山形ネット事務局 小林

13:30～14:30 東日本大震災の文化財救済活動の概要 (題予定) (1 時間)

報告 : 建石徹氏 (文化庁)

(休憩)

14:45～15:15 活動・研修会・会議参加報告 (5 分／1 件程度)

(1) 研修会報告

(2) 会議報告

(3) その他の報告

15:15～16:15 質疑・今後に向けての意見交換 (5～10 分／1 件程度)

(1) 2013 年度活動予定

(2) 活動や問題の提起

(3) 全体質疑

【資料】

(1) 設立宣言

(2) 活動報告

(3) 研修会・会議参加報告

(4) 活動予定

(5) 活動や問題の提起

申し込み／問い合わせ : 山形文化遺産防災ネットワーク事務局 小林貴宏

住所 : 〒992-0351 高島町大字高島 1348 番地の 1 201 号室

e-mail: DQB00442@nifty.com Tel : 090-5849-5532

～集中作業参加者募集！～

日時 : 3 月 23 日 (土)、24 日 (日) 9:00～16:30

場所 : 米沢女子短大 (米沢市通町) / 米沢駅より送迎します

内容 : 被災図書 of 整理と梱包

その他 : 申し込み (初参加の方は必須) は上記事務局まで

山形文化遺産防災ネットワーク発足宣言

豊かな自然に恵まれた悠久の歴史文化の土地、ここ山形は、これまで大きな災害に見舞われることは、幸いにも多くはありませんでした。しかし、昭和39年の新潟地震、昭和42年の羽越水害、山形の気候による雪害や雷による災害は、身近な被害として県内で語り継がれています。災害は決して無縁なものではありません。

いつなん時に起こるか分からないのが自然災害、たとえそれがどんなに大きなものであっても、私たちは災害から「命」を守り、地域で助け合う方法を考え、行動し、乗り越えていかななくてはなりません。いまあるどの地域も、そうした先人の弛まぬ歩みによって築き上げられてきたのです。

先祖の生きた証であり代々受け継いできた地域が誇りとする景観や固有の文化遺産が、これまでの各地の災害において懸命な取り組みの中においても失われてきたことは確かです。しかし、文化遺産は、地域にとって災害後に復興を生き抜いていくために大切な「こころ」の拠りどころ、たからというべきものであることもまた、被災の経験から明らかになってきました。まさに、これまでの教訓を学び、来るべき災害から地域の宝ともなっている文化遺産をいかにして守るか、を考えることは現代に生きる私たちに課せられた責務にほかなりません。

災害時においては、人命や財産を守るための行動を起こすことは当然として、文化遺産も含めて救済しなくてはなりません。災害という尋常ならざる状況下で困難であろうこうした取り組みには、多くの仲間と助け合いが大切です。このような連携を生み出すには日頃から地域における文化遺産の存在情報や保存状況を確認するとともに、災害を想定した救済訓練も重要です。また、県下および県外の近隣地域との災害における相互支援・応援体制・情報の共有も必要です。

「山形に根づいている文化遺産を災害から守りたい」と志を同じくする私たちは、日常的にゆるやかな連携をつくり、絶え間なく活動を続けていくこと、日常から万が一の災害時に至るまで文化遺産の保護・継承活動を多くの仲間と進めることを目的として、ここ山形県立博物館講堂にて「山形文化遺産防災ネットワーク」の発足を宣言します。

平成20年1月25日

(山形文化遺産防災ネットワーク2012 3.11会合 配布資料)

2012 年度活動報告

【クリーニング・整理作業】

東北公益文科大学、山形大学、東北芸術工科大学、上山市南部公民館、山形県立米沢女子短期大学 全 147 回

【会合・打ち合わせ・講演会】

- 03 月 11 日 311 会合 (2011 年度活動報告会・研修会) 県立博物館
- 06 月 01 日 陸前高田市打ち合わせ 陸前高田市博
- 06 月 16 日 山形大学人文地理学会前川さおりさん講演会開催協力 (パネル展同時開催)
山形大学
- 06 月 17 日 遠野市前川さん・宮城農高後藤さん意見交換会 米沢女子短大
- 08 月 13 日 陸前高田写真デジタル化実行委員会事務局と打ち合わせ 米沢女子短大
- 10 月 05 日 宮城農高後藤彰信氏打ち合わせ 米沢女子短大
- 10 月 28 日 いも煮会 上山市南部地区公民館
- 01 月 11 日 山形大学人文学部学術講演会陸前高田市及川甲子氏、熊谷賢氏講演会後援
(パネル展同時開催) 山形大学
- 01 月 12 日 陸前高田市及川甲子氏、熊谷賢氏打ち合わせ 東北芸工大、米沢女子短
- 02 月 05 日 山形県教委文化財保護推進課、危機管理課、県民文化課訪問 山形県庁
- 02 月 09 日 宮城農高後藤彰信氏打ち合わせ 米沢女子短大

【被災地現地レスキュー】

- 03 月 17 日 石巻文化センター 石巻市
- 05 月 19 日 いわき市民間所蔵資料レスキュー いわき市

【展示会・報告会・シンポジウム参加】

- 04 月 米沢女子短大大学資料館展示会 米沢女子短大
- 04 月 19 日 米沢女子短大活動紹介 米沢女子短大
- 07 月 米沢女子短大大学資料館展示会 米沢女子短大
- 09 月 02 日 陸前高田写真デジタル化実行委員会報告会 横浜市
- 10 月 02 日 山形県立高島高等学校報告会 山形県高島町
- 10 月 03 日 山形県立米沢女子短大報告会 米沢女子短大
- 11 月 10 日 新潟資料ネットシンポジウム報告 新潟大学
- 11 月 24 日 東北民俗学会合同研究会報告 岩手大学
- 12 月 山形大学インフォメーションセンター展示会 山形大学
- 01 月 20 日 陸前高田写真デジタル化実行委員会報告会 横浜市
- 01 月 23 日、02 月 04 日、02 月 22 日 被災文化財等救援委員会公開討論会参加

- 02月 お茶ノ水女子大学図書館展示 お茶の水女子大
03月03日 公開フォーラム「大規模自然災害に備える」in岡山参加 岡山大学
03～04月 宮崎県総合博物館 1F ロビー展示 (宮崎歴史資料ネットワーク主催)

【資料所在調査】

- 08月19日 資料所在調査基礎打ち合わせ 大蔵村中央公民館
09月25日 大蔵村第1回資料所在調査 大蔵村
10月27日 大蔵村第2回資料所在調査 大蔵村

【懇親会】

- 10月27日 いも煮会 上山市北部公民館

【通信発行】

- 07月20日 第3号発行
12月10日 第4号発行

【講演記録化】

- 山形大学人文地理学会前川さおりさん講演会
山形大学人文学部学術講演会陸前高田市及川甲子氏、熊谷賢氏講演会

【物品購入・会計】

随時行った

被災文化財救済活動について考える会

「語ろう！文化財レスキュー -被災文化財等救済委員会公開討論会-」に参加して

土屋明日香（広重美術館）

「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」（略称：文化財レスキュー事業）とは、震災発生から半月後の2011年4月1日に文化庁の要請によって設立された組織で、国立文化財研究所、博物館、図書館、県教育委員会、歴史資料ネットワーク等様々な機関・団体によって構成されている。これまで被災した文化財の救出活動を実施してきたが、2013年3月をもって活動を終了する。この討論会は、委員会参加の有無にかかわらず今回の文化財レスキュー活動に関わった様々な立場からの意見を収集し、活動から得られた教訓や課題を共有し、次へとつなげていくことを目的としている。東京国立博物館を会場に1月23日、2月4日、2月22日の3回にわたって開催され、土屋は1回目と3回目に参加した。

〈文化財レスキュー事業について〉

- ・ 当初から文化財保護法上の文化財だけでなく、公文書や自然史系資料、個人のアルバムや位牌なども対象と考え、被災文化財等救援委員会の中に「等」を加えた。
- ・ 最大の問題点は、被災地の各県教育委員会の要請がないと動けなかったこと。またレスキュー事業の情報が市町村まで伝わっていない所もあった。

〈現場〉

- ・ レスキューの現場では「もの」の価値判断はしない。
- ・ 行政・団体・個人によって考え方・やり方・目的等が異なる場合があり、現場の戸惑いになった。
- ・ 公立施設の職員、自治体の文化財担当は震災対応に追われ文化財関連の業務は先送りにせざるを得なかった。またライフラインの寸断により情報の集約・共有がスムーズにできなかった。
- ・ 「自分たちでやる」と決めた岩手。「県でやる」と決めた宮城。対して「行政が主導してくれるのでは」「自治体からの要請がないと動けない」という“待ち”のケースもあった。

〈活かされたこと〉

- ・ つながり。震災前から築いてきた団体、個人のネットワークが大きく活かされた。
- ・ 震災「前」の記録。デジカメで撮影しておくことで、実物は失われたがデータ・情報は残った。また事前調査時に築かれた所蔵者や行政との関係が意義を持った。（宮城歴史資料保全ネットワーク）

〈課題〉

- ・ 一次レスキュー（応急処置）はほぼ終了したが、今後の再処理や、長期的調査の必要性がある。フォローが足りていない。
- ・ 自然史資料の安定化処理方法の確立。劣化が早く優先されるべき資料である。
- ・ 有事の際に備えて、資料の一時保管場所を確保しておく（目処をつけておく）必要がある。
- ・ データベースの構築。災害で失われることを考慮し分散保管。国、世界規模で取り組む必要がある。
- ・ 有事の際、どう連絡するか、どう動くか、日頃からとるべき流れを把握し連携をとっておくことが大事。都道府県の教育委員会、県立博物館・美術館、市町村の教育委員会や文化施設、大学、史料ネット等が分野・館種をこえて連携するネットワークの形成。
- ・ 地域社会全体で「文化財」「歴史資料」の価値・情報を共有し、「守るべきものである」という共通認識を持つことが大事。そのための啓発活動も必要。
- ・ 被災資料処理方法のノウハウ普及と人材育成・教育。所有者・地域住民が応急処置（水損したら乾燥させる等）を知っておくことも有効。

〈感じたこと〉

- ・ 資料所在調査の重要性。いざという時の「情報」「つながり」になる。
- ・ 災害時、まずは地元が動くこと。一次レスキューには「どんな資料がどこにあるか」を知っている人が必要。歴史資料、文化財に携わる人が意識と覚悟を持つこと。認識、知識、技術の拡大。
- ・ 被災者自身も自宅の跡地で写真や位牌をさがす。博物館におきかえると文化財レスキューも同じことで、当たり前なこと。（陸前高田市立博物館 熊谷さん）

「被災地フォーラム in 岡山」参加報告

岡山大学 2013年3月2日 11:00 - 17:30

出席者 田中大輔

公開フォーラム「大規模自然災害に備える—災害に強い地域歴史文化をつくるために—」

基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(被災地フォーラム)

- 1 大学構内の文化財巡見(旧陸軍施設跡、吉備地域を中心とした考古資料のコレクション)
- 2 フォーラム(歴史資料の災害予防調査に関する報告、およびパネルディスカッション)

◇基調講演「「身の丈」の歴史学—記憶・記念物・拠点—」 倉知克直氏

地域の「記憶・記念物・拠点」=過去とのつながりを感じさせるかけがえのない“よすが”。史料や歴史学が人々に体感できる身近なもの、「身の丈」に合うものとするのが大事。

①岡山県立記録資料館(定兼学氏)…岡山県域における資料保存の取組み

岡山県における自主防災組織率の低迷、防災意識と共に資料保存意識も高める必要がある。岡山史料ネットの史料レスキュー・保存啓発。資料所有者の個人的な資料保存活動を顕彰すべき。

②岡山県井原市文化財センター(首藤ゆきえ氏)…市史編纂終了後の資料所在追跡調査

市史編纂時に活用した89件の資料所蔵者へ、往復はがきによる資料の所在確認を行う。回答率50%。回答中80%が将来的に安全な施設へ寄贈を検討。調査者と所蔵者が長期的につながる事が不可欠。

③大分県立先哲史料館(村上博秋氏)…全国に先駆けた防災視点での民間史料悉皆調査

県史編纂に活用した資料を県内6地域・30年間で悉皆調査する。全点撮影して複製、目録化。郷土史家・市町村と提携して実施してきたが、協力者が高齢化し人員不足、事業遅れがち。

④国立歴史民俗博物館(新和宏氏)…文化財救済活動の継続

“資料ネット”を立ち上げたが、実践活動を継続するためには、人材が流動的で制度が不安定。地域住民が地域の自然・歴史・文化を守り伝えていく意識を醸成し維持していけるか。

◇識者コメント・パネルディスカッションでの意見交換

I 資料所在調査の方法論

全点写真撮影、複製物を所有者・関係機関に分散保管→原本・データ消失を回避。
調査後のアフターケア→調査後に成果物を所有者へ引き渡す。定期的に資料の状況を確認する。
非専門家も携われる調査(分業化)→調査に加わることで、史料を読みたくなってくる。

II 被災地支援のあり方(災害当事者と周辺地域の支援)

広域災害における被災地周辺地域の対応(資料ネット間の支援、震災時文書の回収)
学問分野ごとのタテの支援だけでなく、学際的なヨコのつながりがカギ。

III 予防調査の担い手づくり

地域に(所蔵者も含めて)“郷土史家”を養成し、日常的に民間の文化財を把握、点検すること。
→学校教育における社会科の復活。資料所在調査を通じて研究者も一般の人々も資料保全の意識を。